**校長　山崎　晃昭**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| **【めざす学校像】**  ○ 校風・校是「自由と創造」「日新日進」のもと、生徒一人ひとりが自分の色を輝かせ、全体で虹の架かる学校  ○ 将来の「大阪」とグローバル化に対応する人材と「大阪の教育」をリードする教員が育つ学校  ○ 生徒・保護者・地域住民から信頼される学校  **【生徒に育みたい力】**  **○ 強靭な知性 ・みずみずしい感性・品格ある人間性**  　→　確かな学力（自己実現のための学力、知的好奇心、探究心　等）  生きる力　（客観的事象分析・問題解決能力、意見表明・プレゼンテーション能力　等）  豊かな心　（生命・人権の尊重、規範意識、異文化理解、多文化共生　等）  社会参加力（社会参加、社会貢献　等） |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| **１　確かな学力を踏まえつつ、高い志を育み、進路実現をめざす取組みの推進**  **（１）生徒のもつ学力を最大限に引き出す**  ア　魅力ある授業の実施  効果的な補助教材の作成、教員の指導技術の一層の向上に努めるとともに、新学習指導要領について2022年度からの実施に向け教育課程の検討を進め、2020年度中に教育課程を編成する  また、新学習指導要領や大学入試改革を見据えて、H31年度中に「主体的・対話的で深い学び」の推進と大学進学実績向上の両立をめざした「高津授業メソッド」を完成させ、2020年度以降につなげる  ＊生徒向け授業アンケートの項目８・９（内容に興味・関心が持てた・知識や技能が身についた）の平均点（H30：3.23／４点満点）をH31年度以降も3.2以上で維持する  イ　講習・補習の充実  放課後、土曜日、長期休業中等の講習内容と規模を充実させ、進路実現に向けた指導を行う  ＊難関国立大学（京都大、大阪大、神戸大）への合格者数（現役生＋既卒生／H30：68人、東京大を含む ）を、2020年度までに80人以上とし、一層の増加に努める  ＊国公立大学への現役生の合格者数（H30：130人）を、2020年度まで130人以上で維持し続ける  ウ　英語運用能力の向上  英語での授業を基本としつつ、外部試験等を活用し、英語コミュニケーション能力の目標を明確に示すことで、生徒の英語運用能力を総合的に高める  ＊12月実施予定の第２回GTECスコアレポートにおいて、2021年度までにCEFR　B1：100人以上をめざす  ＊KITEC（ネイティブスピーカーの方々を多数招聘し、少人数に分かれて一日英語漬けで会話能力の向上をめざす企画）を2021年度まで継続し、KITECを通して、英語に対する興味・関心、運用能力が向上したと回答した生徒の割合を98％以上で維持し続ける  **（２）生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探究心を高める**  ア　文理学科「課題探究講座」（文系・理系）の内容のさらなる充実と全校生徒での共有  ＊２年生の｢課題研究｣に対する満足度をさらに高めるとともに、課題研究発表会の生徒参加数（H30：約720人）を、2021年度まで700人以上で維持する  イ　創造探究事業（高大連携）の内容の充実  ＊文理学科１・２年生の外部連携事業への延べ参加者数（H30：約1543人）を、2021年度まで1,000人以上で維持し続ける  ウ　海外の科学先進校等との交流の推進  　海外の科学先進校等との共同研究や共同発表会等を実施するなど、交流内容をさらに充実させる  ＊交流日数（H30年度：５日）について、2021年度まで４日以上で維持し続ける  **（３）進路指導をさらに充実させる**  ア　自己実現に向けた体験型進路学習（職場訪問、大学研究室訪問）の充実  １年生は、望ましい職業観・勤労観を育成することを目標に、訪問時のインタビューの精度を高めるとともに、プレゼンテーションの質的向上を図る  ２年生は、大学における学問・研究に対する理解促進を目標に、生徒同士が学んだ内容について実施するポスターセッションの質的向上を図る  ＊１・２年生とも訪問先（H30：１年生63カ所、２年生49カ所）を、2021年度まで各50カ所以上、生徒満足度（H30：95％）を90％以上で維持し続ける  イ　３年間を見据えたキャリア教育の充実  学校として確立した進路指導方針（高津進路プログラム：ＫＳＰ）に基づき、学年の進路指導ホームルームや進路説明会をより系統的に計画・実施する  ＊学校教育自己診断の進路指導への満足度（H30：生徒80％・保護者81％）を、2021年度までにともに80％以上で維持する  **２　スクールアイデンティティに基づく、豊かな心の育みと規律・規範の確立**  **（１）人権尊重と生徒の社会体験活動の促進**  ＊学校教育自己診断の、人権に関する指導に対する肯定率（H30：生徒82％　保護者82％）を、2021年度までに、ともに85％以上に引きあげる  ＊部活動参加生徒による「高津キャラバン隊」の実施クラブ率（H30：100％）を、2021年度まで90％以上で維持し続ける  **（２）規律・規範意識の向上**  ＊年間の遅刻者総数（H30：2,041件）を、2021年度まで2,000件以下で維持し続ける  **（３）生徒の自主的活動の活性化（部活動、生徒自治会活動）**  ＊部活動加入率（H30：86％）を、2021年度まで85％以上で維持し、一層の増加に努める  ＊生徒向け学校教育自己診断の自治会活動に対する肯定率（H30：64％）を、2021年度までに70％以上に引きあげる  **（４）きめ細やかな保健指導と教育相談体制の充実**  ＊生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度（「わからない」を除く／H30：84％）を、2021年度まで80％以上で維持し、一層  の向上に努める  **３　教職員の資質向上と学校運営体制の確立**  **（１） 教科指導力の向上**  ＊生徒向け授業アンケートの全項目平均値（H30：3.23／４点満点）を、2021年度まで3.2以上で維持し続ける  **（２） 研修の充実**  ＊教員向け学校教育自己診断の校内研修に関する肯定率（H30：90％）を、2021年度まで80％以上で維持し続ける  **（３） ミドルリーダーの育成と経験の少ない教員のさらなる資質向上**  ＊教員向け学校教育自己診断のミドルリーダー育成に関する肯定率（H30：80％）を、2021年度まで75％以上で維持し続ける  **（４） 学校の組織的運営、校務の効率化及び情報共有**  　＊教員向け学校教育自己診断の各分掌や学年・教科等の円滑な連携等に対する肯定的意見（H30：80％）を、2021年度までに75％以上で維持し続ける  **（５） ＩＣＴ活用ならびに実験・実習、体験的な教科指導の充実**  ＊生徒向け学校教育自己診断のＩＣＴ活用に対する満足度（H30：90％）を、2021年度まで90％以上で維持し続ける  **（６） 地域に開かれた学校づくりの推進**  　　　　 ＊生徒による社会体験・貢献活動（ボランティア講座、支援学校との交流、部活動参加生徒よるキャラバン隊 等）をさらに活性化させる  **（７） 社会全体の「働き方改革」の流れを踏まえた、（校内）安全衛生委員会機能のさらなる向上**  ＊教職員向け学校教育自己診断の「教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談」についての肯定率（H30：85％）を、2021年度まで80％以上で維持する |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［2019年12月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| １　確かな学力をふまえつつ、高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み | 1. 生徒のもつ学力   を最大限引き出す  ア．魅力ある授業の実施（「高津授業メソッド」づくり  （STAGE３）   1. 英語運用能力   （４技能）の向上  (２)海外の科学先進  校等との交流促進  ア．交流対象校との交流内容の充実  (３)進路指導をさら  に充実させる  ア．体験型進路学習の一層の充実 | (１)  ア・新学習指導要領や大学入試改革を見据えて、平成29年度に立ちあげた、「主体的・対話的で深い学び」の推進と大学進学実績向上の両立を可能とする「高津授業メソッド」の確立をめざし、担当部署を中心に具体的な取組みを推進する。（発展）  イ・１・２年生を対象に、GTECの受験を促進する。（充実）  　　KITECを実施し、英語会話能力の向上をめざす。（継続・発展）  （２）  ア・交流対象校と交流内容の充実を図るとともに、より継続的かつ双方向的な交流へと充実を図る。（充実）  (３)  ア・総合的な学習の時間を活用し、７月と10月に実施する体験型進路学習を通して、進路に対する意欲を高める。（継続・発展）  　　　１年生「職場訪問」  　　　２年生「大学研究室訪問」 | (１)  ア・教員向け学校教育自己診断の「高津授業メソッドの推進状況」に関する項目の肯定率（H30：86％）を90％以上とする。    イ・12月実施予定の第２回GTECスコアレポートにおいて、CEFR B1：80人以上をめざす。また、KITECを通して、英語運用能力が向上したと回答した生徒の割合を98％以上で維持する。  (２)  ア・交流日数（H30：５日）について４日以上で維持し続けるとともに、参加生徒の満足度（H30：100％）を90％以上で維持する。  (３)  ア・生徒向け学校教育自己診断での体験型進路学習に対する満足度（H30：95％）を90％以上で維持する。 |  |
| ２　豊かな心のはぐくみと規律・規範の確立 | (２) 規律・規範意識の向上  ア．基本的生活習慣  の定着  (３) 生徒の自主活動の活性化  ア．生徒自治会活動のさらなる活性化  (４)  ア．保健室利用、教育相談体制の充実 | (２)  ア．教員間で生徒指導方針を共有し、挨拶の励行  と遅刻者数の減少に取り組む（継続）  (３)  ア・記念祭（文化祭・体育祭の一括実施）等の行事に関して、引き続き、教職員と生徒が一体となって実施体制及び運営体制を整理し、新たな伝統創生をさらに進めることで、本校ならでは自治会活動のさらなる活性化を図る。（継続・充実）  (４)  ア・支援や配慮を要する生徒対象に、スクールカウンセラーによる助言等の機会を通して、生徒及び保護者の悩みの解消に努める。（継続・発展） | (２)  ア．遅刻者数（H30：2,041件）を2,000件以下にする。  (３)  ア・行事後の生徒の満足度（文化祭・体育祭の平均 H30：97％）を95％以上で維持する。  　・生徒向け学校教育自己診断の自治会活動に対する肯定率（H30：64％）を70％以上にする。  (４)  ア・生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度（H30：84％）、保護者の学校への相談に対する満足度（H30：84％）を、ともに80％以上で維持する。 |  |
| ３　教職員の資質の向上と学校運営体制の確立 | 1. 教科指導力の   向上   1. 教科指導力の   向上  (３)ミドルリーダーの育成、経験の少ない教員の資質向上  (７)安全衛生委員会の機能向上 | (１)  ア・教員間の授業交流の促進、研究授業・協議を一層活性化させ、さらなる授業力向上に努める。（継続・充実）  　・生徒による授業評価（年２回）や授業公開等を実施し、その結果を教員・教科にフィードバックし、授業改善に生かす。（継続）  (３)  ア・より効果的・効率的な業務遂行が可能となる、本校らしいヒエラルキーを構築し、計画的なミドルリーダー育成に努める。（継続・充実）  (７)  ア・「働き方改革」の流れを念頭に、校内規約に基づき、教職員の安全及び健康の確保、ならびに快適な職場環境の形成の促進に努める。  　　（継続・充実） | (１)  ア・生徒授業アンケート１～９全質問の平均値（H30：3.26）を3.2以上で維持し、さらなる向上に努める。  (３)  ア・教員向け学校教育自己診断における、ミドルリーダーの育成等に関する肯定率（H30：82％）を75％以上で維持する。  (７)  ア・教職員向け学校教育自己診断における  「教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談」に対する肯定率（H30:87％）を80％以上で維持する。 |  |